

## 国際再生可能エネルギー機関(IRENA)第23回理事会

### 小田原副大臣発言(和文仮訳)

ウクライナ危機の影響を受けたエネルギー価格の高騰は、我々に改めてエネルギー安全保障とエネルギー転換の両立の重要性を認識させました。

IRENAの旗艦報告書「World Energy Transitions Outlook」に述べられているとおり、効率よく分散化された再生可能エネルギーを主としたエネルギーシステムは、気候変動対策だけでなくエネルギー安全保障の向上にも役立つものです。しかし、社会がこのようなシステムへ移行する、すなわち、クリーンエネルギーへの移行の道筋は一つではありません。現実的なエネルギー転換を実現する観点から、各国の事情に応じたエネルギー転換の在り方について、さらに議論が深まるべきと考えます。エネルギーを取り扱う国際機関として最も多くの加盟国を誇るIRENAは、まさにこの議論のためのうってつけの場所です。

今後のエネルギーの将来に目を向けると、各国のエネルギー転換のあり方のみならず、脱炭素化実現のための言わば前提となりうる資源、すなわち、太陽光パネルや蓄電池等の再エネ機器製造に不可欠な重要鉱物資源、そして脱炭素化の切り札である水素の将来の議論も必要です。

これら資源の安定的な確保やイノベーションの議論においても、IRENAは強みを発揮しています。

コラボラティブフレームワークには、新たに重要鉱物資源がテーマとして加わりました。投資の拡大、マーケットの公正性と透明性、鉱山労働者の人権保護、環境への配慮等の議論と知識交換のためのガイドラインが示されようとしています。これらはすべて、これらの重要な資源の安定供給を実現する方法を考える際に考慮すべき非常に重要な領域です。

また、IRENAは水素の国際貿易の分析にも着手しています。コストの低減、運搬方法の確立、規模拡大に向けたイノベーションの重要性、2030年及び2050年における国際貿易のあるべき姿など、水素の大量導入が必要な我が国だけでなく、他の加盟国にとっても、今後の展開が大いに期待できるテーマの1つと言えるでしょう。

昨年来劇的に変化しているエネルギー情勢の最中、エネルギー転換の具体的な道筋を各国に示してきたIRENAの役割は大きく、前回議長として、我が国はその活動を支えて参りました。IRENAを率いるラカメラ事務局長、前回副議長として我が国をサポートしてくれたジンバブエ、そしてIRENAを支えている皆様に御礼申し上げます。

ご清聴有り難うございました。